

令和 7 年 10 月 10 日

会 議 録

審 議 会 等 の 名 称	函南町水道事業審議会（第 1 回）
庶務を担当する所属	建設経済部 上下水道課
会 議 の 開 催 の 日 時	令和 7 年 10 月 7 日（火） 午前・ 午後 3 時
会 議 の 開 催 場 所	函南町役場 4 階 特別会議室
出席者（職・氏名）	函南町水道事業審議会委員 14 名 会長 幸野宗昭 副会長 兵藤慎一 委員 鈴木晴範、日吉智、仁科和晴、室伏淳一、 遠藤悦司、日吉章博、山下雅彦、渡邊仁美、 棚井俊彦、大木隆幸、井手尾達、杵寄賢 建設経済部長 村上克司 上下水道課 課長 中村大 課長補佐 井野直樹、山田正和 係長 岡本珠美、齋藤駿
議 題	諮問審議 上水道事業運営の検証及び水道料金について
審 議 内 容	資料に基づき、上水道事業の料金改定方針案と 4 つの投資・財政計画シミュレーション表等により説明・質疑応答。 委員 町民の皆さんは水道料金が上がってしまうのは困るという人も多いと思うが、現在の水道事業を見ると料金改定もやむなしとされている人もいると感じる。 今後物価高や人件費の高騰もあり将来的な予想も難しい中、予想される人口減はこのままいくのか、更に減少するのではないかと感じる。シミュレーションはどうなっているのか。 また、価格を上げるということは、コストダウンもしていかなければならないと感じる。それについてどう考えているか。 また、4 つのシミュレーションの中で事務局側はど

の案が一番いいと考えているか。

事務局

将来の人口予測については、昨年度の上水道事業経営戦略を更新した際に、国立社会保障人口問題研究所の数値を基に作成したものである。予測値のものとなるため将来的な部分は不明瞭ではあるが、3年から5年ごとに開かれる審議会のタイミングでその都度見直しをかけていく必要はあると考えている。

事業の効率化については、コストダウンもしていかなければならないと認識しており、1つの試みとしては水道の会計システムを近隣市町と共同で調達して導入するなど費用削減に努めているところである。今後もコストダウンに心掛け、効率的で費用対効果の良い事業を進めていきたいと考えている。

事務局では4パターンのシミュレーションについて、住民の生活を考えると、パターン1の料金算定期間3年、料金回収率100%が理想であると考えている。4つのパターンを用意させていただいたのは、料金回収率100%では、突発的な災害などの内部留保の積立てが難しいという点がある。料金回収率が110%であれば経営の面では安心できる部分もあるので用意させていただいた。3年と5年の差は、今回水道の審議をしていただいているが、下水道料金についても経営が厳しく来年度以降審議会を予定しており、そうなった時に3年ごとだと、水道料金が上がって、その次の年に下水道料金が上がると、毎年料金の改定となってしまうかもしれない。5年であれば値上げの年を空けることもできるため、5年のパターンも用意させていただいた。

委員

値段がちょっとしか上がらないからそれで町民の皆さんが納得するというわけではなく、安心安全な水を供給することが一番と考えている。

水道の配管の問題はどうか教えてほしい。

事務局

水道管路についても計画的に布設替えしていかなければならないと考えている。管路更新計画では路線ごと、管種や口径、重要施設への管路か、漏水が多発している地域かなどを考慮し点数化したものであり、優先度をつけて更新していく路線を決めている。また、経営戦略ではその計画を踏まえて建設改良費等も盛り込んでいる。

近年では第1浄水場の全面的な更新を完了した。今

後は、第2浄水場、第3浄水場といったものをどのように更新していくかまだ決まっていないが、計画的に更新していかなければ施設は老朽化していく一方で、耐震化も進めていかなければならないと考えている。安心安全な水の供給のためには、適切な投資は必要であるが、過度な投資ではなく計画的な投資をしていく中で、できるだけ料金を抑えながら進めていきたいと考えている。

委員

参考資料2で管種別の資料について、様々な種類の管があるが、町としてどの管種を推奨しているのか、また管種ごとの原価はどの程度か。

事務局

参考資料2で管種ごと延長を示させていただいており、大きく分けた中で铸铁管や鋼管や硬質塩化ビニル管の一部が更新の対象となると認識している。現在の布設替えではダクタイル铸铁管かポリエチレン管（融着）を使用している。管種もそうだが、口径や重要施設への管路か等を総合的に見て管路更新計画を作っているため、必ずしも铸铁管、鋼管を真っ先に進めているというわけではない。

ポリエチレン管（融着）の材料費等は資料を持ち合わせていないが、現在布設替えで採用している管種は、80年から100年もつとも言われており、耐用年数の長いものを布設替えの管種とさせていただいている。

委員

料金改定について、現在の料金表で基本料金は20 m^3 までだが、60 m^3 を超えて使う人はいるのか。

また、30%アップした場合、20 m^3 を使う人はどの程度の料金となるか。

事務局

過去の実績では、20 m^3 までの家庭が約20%、21 m^3 から40 m^3 までが約35%、41 m^3 から60 m^3 が約25%、残りの約20%が61 m^3 を超える結果となっていた。

経営状況を示した投資財政シミュレーション表では、町民一人当たりの上がり幅がわからないため、第3回の審議会では料金表をベースとして、2ヵ月に一回でどの程度上がるのか、一年間に換算するとどの程度となるか用意させていただきたい。

委員

現行料金で計算すると 40 m³ の場合、4,200 円となる。30%アップすると 5,460 円になる。43%アップだと 6,006 円になる。現行で 4,000 円代だったものが、6,000 円代となると主婦目線ではすごく増えたなという感覚になる。

そう考えると妥協出来る範囲は 5,000 円代かなと考える。年間では 7,200 円くらいになるがそのくらいであれば仕方ないかなという感覚を持った。

事務局

生活目線で見ると一気に値上がりするのは厳しい部分もあるため、次回は更に段階的にやる方法等も検討していきたい。

委員

簡易水道では、基本料金と超過量金について、基本料金をまず上げて、その次に超過料金を上げたという過去の経緯がある。5 年で見れば長い目で見れるので下水道事業も含めて長い目で見てほしい。

委員

算定期間が 3 年と 5 年とあり、上水道と下水道もあるとなると、算定期間 4 年という考えもあると思うがどうか。

事務局

今回はシミュレーションのいくつかの案の中で 3 年と 5 年を用意させていただいたもので、4 年のパターンも作成することは可能です。

委員

そうすると 1 年おきに上下水道の料金が改定となるとということも考えられると思うので検討してほしい。

委員

シミュレーションは投資と財政計画となるもので、町民の皆さんに見せるには平均的な世帯でどの程度上がるかを示した方がいいと思う。

3 年か 5 年でというのと、今の物価の変動を見ると 5 年先だと見通しが難しいのではないかなと思う。そういった意味ではできるだけ修正が早くできる期間とした方が現実的かなと感じる。

	会長 次回は、事務局で３年から５年でシミュレーションした具体的な金額を出してもらうようお願いしたい。 事務局 本日皆さまからいただいた意見も踏まえて、料金表で比較した資料を用意してご審議いただきたい。また、世帯別で一人世帯や、家族の世帯等で複数のものを用意させていただきたい。 委員 人口減については、函南町の世帯数と人口の割合で出てくると思うため、函南町の実際のデータを出してもらいたい。 事務局 次回は 12 月中旬から下旬に予定している。また日程調整に協力をお願いします。 今日の意見をふまえた資料を事務局が用意し、次の審議会に諮っていくことで合意、終了した。
備	考